

Extreme Platform ONE™と Extreme Fabric がもたらす 経済的効果

Peter Fetterolf PhD



エグゼクティブ・サマリー

企業ネットワークは、ハイブリッドなネットワーク構成の拡大、多様化するエンドポイント、そして急速な技術革新を背景に、年々複雑化しています。その結果、企業は効率性・セキュリティ・俊敏性を維持するうえで、これまで以上に大きな課題に直面しています。Extreme Platform ONE™ と Extreme Fabric は、こうした課題に正面から向き合い、現代のエンタープライズ要件に対応する統合型かつ AI を活用したネットワーキングソリューションを提供します。

デジタルトランスフォーメーションの進展と、ビジネスにおける AI 活用の拡大により、企業ネットワークの複雑性は飛躍的に高まっています。分散したユーザーやデバイス、パブリック/プライベートクラウドサービス、そして AI ワークロードの増加は、トラフィックを指数関数的に増大させ、高い信頼性とセキュリティを備えたネットワークサービスへの需要を生み出しています。一方で、企業は、ネットワークの運用コスト (OpEx) を継続的に削減することを求められており、その結果、IT 部門は限られたリソースで、より多くの成果を出すことが強く求められています。ACG Research は、このような環境下において、企業が次の目標を達成するためには、ネットワーク自動化と AIOps、または「AI for Networking」のような、より高度なアプローチを組み合わせて導入することが不可欠であるとしています。

- 複雑化するネットワーク運用の簡素化
- デジタルトランスフォーメーションの推進加速
- ネットワーク運用コスト (OpEx) の削減

本ホワイトペーパーでは、Extreme Platform ONE™ と Extreme Fabric が、集中管理、エンドツーエンドの自動化、そして堅牢なセキュリティ機能を通じて、どのようにネットワーク運用を簡素化し、導入を迅速化し、総所有コスト (TCO) を削減するのかを検証します。単一のダッシュボードによる可視化、AI を活用したインテリジェントなトラブルシューティング、ポリシーベースのプロビジョニングを、高度なファブリック・ネットワーキングと組み合わせることで、運用上のボトルネックを解消できます。その結果、手作業に依存した作業を削減し、拠点やユーザーの増加にも安全に対応できるスケーラブルなネットワーク運用が可能になります。これにより、ネットワーク運用のシンプル化、価値実現までの時間短縮、そしてリスクおよび運用コストの両面において、測定可能な削減効果が実現されます。

ACG Research による TCO 分析では、主要競合と比較して 5 年間の累積 TCO が 32% 削減されることが示されました。この削減効果は主に、以下の分野における人件費の削減によるものです。

- ネットワーク計画
- セキュリティコンプライアンス管理
- 構成管理
- 在庫およびソフトウェアライセンス管理
- ソフトウェアアップグレード

なお、本 TCO 分析では、Extreme と主要競合の双方が、障害管理および性能管理に関する AIOps 機能において同等の能力を備えていると仮定しています。これらの機能は、今日のネットワーク導入において「前提条件 (table stakes)」と位置付けられています。

はじめに：複雑化が進むエンタープライズネットワーク

今日のデジタル環境において、エンタープライズネットワークは、急速な技術革新の進展、セキュリティ要求の高度化、そしてリモートワークの増加などを背景に、かつてないほど大きなプレッシャーにさらされています。こうした課題は個別に存在しているのではなく、それぞれが相互に影響し合いながら、IT チームが日常的に管理しなければならないネットワーク運用の複雑性を増幅させています。自動化、統合管理、そして AI を活用した最適化といった変革的なネットワークソリューションがなぜ必要とされているのかを理解するためには、これらの変化を正しく認識することが不可欠です。

複雑化が進むネットワーク

現代のエンタープライズネットワークは、もはや静的なオンプレミス環境に限定されるものではありません。ネットワークの複雑化が進む主な要因には、次のようなものがあります。

- **デバイスの増加**：IoT デバイス（センサーや IP カメラなど）やモバイル端末を含む、数万規模のエンドポイントが管理されており、これらすべてのエンドポイントに対して、安全で信頼性の高い接続を提供することが求められています。
- **ハイブリッドトポロジー**：ネットワークは、オンプレミス拠点、クラウド、集中型データセンター、リモート支社、リモートアクセス環境にまで広がっており、これらすべてにおいて一貫したポリシーと管理が必要とされています。

- **プロトコルの乱立**：レガシープロトコルと、VXLAN やネットワークファブリックといった最新のオーバーレイ技術が共存することで、運用上のオーバーヘッドが増大し、潜在的な障害点も増加します。これは、ネットワーク運用をさらに複雑にする要因となっています。

急速な技術進化

新しいテクノロジーの登場により、エンタープライズネットワークのあり方は継続的に再定義されています。

- **クラウドへの移行**：中核となる業務アプリケーション、ストレージ、ID 管理サービスは、パブリッククラウド、プライベートクラウド、あるいはマルチクラウド環境でホストされるケースが増えています。その結果、ネットワークには、環境をまたいだシームレスかつ高性能な相互接続が求められています。
- **ソフトウェア定義ネットワーク (SDN)**：プログラム可能でポリシー主導のアーキテクチャへの移行は、高い俊敏性をもたらす一方で、ネットワーク運用における専門知識の要求水準を引き上げています。
- **AI と自動化**：AI や自動化は、大規模なネットワーク環境を支えるうえで不可欠な技術ですが、その価値を十分に引き出すためには、既存環境との統合や、新たなスキルセットの習得が必要になります。

分散したユーザーとワークロード

ビジネスの環境やモデルは、大きな変化を遂げています。

- **リモートおよびハイブリッドワーク**：IT 部門は、リモートで働く従業員だけでなく、外部の契約業者も含めて、ユーザー体験を損なうことなく、安全に接続を提供する必要があります。あわせて、新たな脆弱性を生み出さないことも重要な要件です。
- **エッジコンピューティング**：パフォーマンス向上を目的として、データやアプリケーションがエッジで稼働するケースが増えています。その結果、制御は分散し、管理しなければならない拠点の数も増加しています。

クラウド接続とセキュリティ

クラウド接続の普及は、運用面およびセキュリティ面の新たな課題をもたらしています。

- **動的なクラウドワークロード**：アプリケーションやデータは、クラウドとオンプレミスの境界を日常的に行き来しており、これに対応するためには、柔軟な接続性とポリシー制御が求められます。
- **複雑化するセキュリティ体制**：信頼できる境界線が曖昧になる中で、サイバー脅威は深刻化しています。これに対抗するためには、一貫したセグメンテーション、ID ベースのアクセス制御、そして継続的なコンプライアンス監視が不可欠です。

運用負荷

これらの要因が重なり合うことで、従来の IT 運用は大きな負荷を抱え、ネットワーク管理コストは上昇しています。

- **手動によるプロビジョニングとトラブルシューティング**：ネットワークの複雑化に伴い、設定、監視、根本原因分析に必要な時間とリスクが増大しています。
- **リソース制約**：高度なスキルを持つネットワーク人材は希少化しており、人手に依存した運用は持続不可能になりつつあります。
- **コンプライアンスおよび監査への対応**：規制変更やデータプライバシーへの対応が頻繁に求められる中、強力かつ自動化された統制とレポートが必要とされています。

総じて、現代のエンタープライズネットワークは、前例のない技術的多様性、運用規模、そしてセキュリティ要件により、大きな負荷を抱えています。運用を簡素化し、定型業務を自動化し、環境全体を横断して統合管理できるソリューションは、もはや選択肢ではなく、強靱で将来に対応可能な IT インフラの基盤となっています。

Extreme Platform ONE™：概要

Extreme Platform ONE™ は、多様な環境にまたがるネットワーク運用を一元化し、簡素化することを目的として設計された、統合型かつクラウドネイティブなネットワーク管理プラットフォームです。Extreme Networks によって開発され、有線、無線、そしてセキュリティインフラを、AI を活用した高度に統合されたワークスペースから管理できるようにします。本章では、Extreme Platform ONE™ のアーキテクチャ上の主な特長と、それによってもたらされる運用上のメリットについて説明します。

統合管理と可視性

- **Single Pane of Glass(単一画面による統合管理)**：スイッチ、アクセスポイント、SD-WAN、ZTNA、NAC など、すべての Extreme デバイスの管理を単一の直感的なダッシュボードに統合します。これにより、複数の管理ツールを使い分ける必要がなくなり、運用の複雑性が大幅に低減されます。
- **マルチテナント/マルチサイト対応**：マネージドサービスプロバイダー(MSP)や大規模エンタープライズ向けにネイティブ設計されており、複数の組織や事業部門を論理的に分離しながら、集中管理することができます。

- ・ **トポロジーの包括的な可視化**：ネットワークトポロジー、デバイスの健全性、アプリケーションフローをリアルタイムかつ動的に可視化し、迅速な状況把握とトラブルシューティングを可能にします。

AI を活用した自動化

- ・ **自動トラブルシューティングとイベント相関**：AI を活用してネットワークの異常を継続的に監視し、障害を自動的に診断します。必要に応じて是正策を提案、あるいは自動適用することで、IT チームによる手動対応の負荷を軽減します。
- ・ **予測分析**：機械学習および AI モデルにより、輻輳やデバイス障害などの運用上の問題を事前に予測し、予防的な対策を推奨します。これにより、より迅速かつ先回りしたネットワーク運用が可能となります。
- ・ **ポリシー主導の構成管理**：ネットワークおよびセキュリティポリシーをインフラ全体にわたって自動的に適用できるため、デバイスのオンボーディングやコンプライアンス対応を迅速に行えます。

セキュリティとコンプライアンス

- ・ **組み込みマイクロセグメンテーション**：ネットワークのセグメンテーションとポリシー適用を自動化し、横方向のトラフィックを制御することで、潜在的な脅威の影響範囲を最小化します。
- ・ **ゼロトラストの原則**：ID ベースのアクセス制御と継続的な監視を組み合わせることで、動的かつ分散したネットワーク環境においても、高いセキュリティレベルを維持します。
- ・ **自動化されたコンプライアンスレポート**：標準化されたレポートとリアルタイムなステータス可視化により、監査対応やコンプライアンス確認に伴う作業負荷を軽減します。

導入と運用

- ・ **クラウドネイティブアーキテクチャ**：スケーラビリティと高可用性を前提として設計されており、オンプレミス環境およびハイブリッドクラウド環境の両方に対応します。ソフトウェア更新もシームレスに実行できます。
- ・ **エッジ限定のプロビジョニング**：明示的な設定が必要なのはエッジデバイスのみであり、ミドルおよびコアのデバイスは自律的に学習・適応します。これにより、運用オーバーヘッドがさらに低減されます。
- ・ **ゼロタッチプロビジョニング**：プラグアンドプレイによるデバイスオンボーディングなど、最小限の手作業で迅速な導入を実現します。

Extreme Fabric : 概要

Extreme Fabric は、標準ベースの Shortest Path Bridging (SPB) を活用した、高度で統合されたネットワーキングアーキテクチャです。キャンパス、データセンター、支社、分散した拠点を、単一のシームレスなファブリックとして相互接続します。

基本特性

- **単一制御プロトコル (IS-IS)** : Extreme Fabric は、複数のレガシープロトコルを、IS-IS による統合されたリンクステート型制御プレーンに置き換えます。これにより、レイヤー 2 およびレイヤー 3 の接続性を単一プロトコルで実現し、プロトコルの複雑性や設定ミスリスクを低減します。
- **マイクロセグメンテーションとサービス仮想化** : 動的な仮想ネットワークにより、トラフィック、ユーザー、アプリケーションをマイクロセグメンテーションを通じて分離します。これにより、セキュリティの強化と運用上の俊敏性の両立が可能になります。
- **自動パス最適化** : IS-IS を利用して、すべてのパケットに対して最短かつ最速の経路を自動的に選択します。ネットワークループを回避しながら、利用可能な帯域幅を最大限に活用します。

主な機能

- **エッジ限定のサービスプロビジョニング** : VLAN やネットワークセグメントはネットワークエッジでのみプロビジョニングされ、コアは最適な転送パスを自動的に確立します。そのため、コア側での手動設定は不要となります。
- **MAC-in-MAC カプセル化** : 顧客トラフィックは MAC-in-MAC によりカプセル化され、エンドポイントの詳細情報がコアから隠蔽されます。これにより、プライバシーとセキュリティの双方が強化されます。
- **有線および無線のシームレスなサポート** : Extreme Fabric のアーキテクチャは、スイッチ、ファブリック対応アクセスポイント、各種デバイス、さらにはサードパーティ製エンドポイントにまで、一貫して適用されます。

自動化とスケーラビリティ

- **ゼロタッチのサービスインスタンス化** : 新しいサービスやエンドポイントは自動的に検出され、ファブリックへ統合されます。これにより、サービス提供までの時間を短縮するとともに、設定ミスによるエラーリスクを低減します。
- **サイト間スケーラビリティ** : Extreme Fabric は、大規模なマルチサイトおよびマルチテナントネットワークをサポートする設計となっています。そのため、成長を続けるエンタープライズやサービスプロバイダーに適しています。

本章の内容を踏まえ、Extreme Platform ONE™ と Extreme Fabric の主要なベネフィットの要約は、次の表 1 に示されます。

ベネフィット区分	Platform ONE の特長	Extreme Fabric の特長
集中運用	単一のダッシュボードによる、すべてのデバイスの統合管理	キャンパス、データセンター、支社にわたるシームレスな管理
自動化	AI を活用したトラブルシューティング、予測分析、自律修復	エッジ限定のプロビジョニング、自動最適化コア、ゼロタッチのサービス作成
セキュリティ	自動化されたマイクロセグメンテーション、ID ベースのアクセス制御、コンプライアンスの自動化	動的セグメンテーション、MAC-in-MAC によるプライバシー保護
スケーラビリティ	マルチテナント、マルチサイト、ハイブリッドクラウド対応	小規模拠点からグローバルネットワークまで拡張可能なマルチテナント型コア
迅速な導入	ゼロタッチプロビジョニング、ポリシーテンプレート	エンドポイントの自動検出およびオンボーディング
運用の簡素化	ポリシーベースのプロビジョニング、単一の制御点、ファブリックの監視と可視化	レガシープロトコルの調整が不要、Spanning Tree ループの排除
TCO の削減	運用効率の向上、人件費の削減、手作業の削減	リスクとエラーの低減、大規模環境におけるハンズオン管理の最小化

表1： Platform ONE と Extreme Fabric の主要なベネフィット

ベネフィットの要約

Extreme Platform ONE™ と Extreme Fabric を組み合わせることで、次のような価値が提供されます。

- **統合された AI 駆動の管理と自動化**により、ネットワーク運用を抜本的に簡素化します。
- **自動化されたマイクロセグメンテーション、継続的な監視、動的なポリシー適用**により、より強固なセキュリティを実現します。
- **ゼロタッチかつエッジ限定のプロビジョニングと、自動化されたサービス作成**により、迅速かつエラーのない導入を可能にします。
- **ビジネスの成長、技術の変化、リモート／ハイブリッドワークの要件**に対応できる、スケーラブルで耐障害性の高いインフラを提供します。
- 定型的な手作業を排除し、問題解決を迅速化することにより、エンタープライズ向け TCO 分析で示されているように、**業務効率を向上しコストの大幅な削減**を実現します。

これらのイノベーションにより、組織はネットワークの保守運用に費やす時間を減らし、戦略的なデジタル施策の推進に、より多くのリソースを集中できるようになります。

Platform ONE と Extreme Fabric による 業務効率化の仕組み

1. AI を活用した自動化とエージェント型 AI ワークフロー

- 自動トラブルシューティング、是正、およびイベント相関により、ヘルプデスクや NOC（ネットワーク運用センター）における手動対応の作業負荷が軽減されます（例：Service Agent）。
- ポリシー主導の構成管理とコンプライアンスの自動適用によって、繰り返し発生するネットワーク再プロビジョニングの必要性が低減されます。
- 予測分析により、問題を事前に特定し、障害が発生する前に先回りして対処することが可能になります。

2. エッジ限定のプロビジョニングと Fabric の簡索性

- サービスはネットワークエッジでのみプロビジョニングされ、コアは自己学習型で自動最適化されます。
- Spanning Tree などのレガシープロトコルを排除することで、手動によるチューニングやトラブルシューティングを最小限に抑えます。
- ライセンスおよび在庫管理を一元化することで、管理作業にかかる人的負担を削減します。

3. 統合管理とシングル・ペイン・オブ・グラス

- 有線、無線、ファブリック、セキュリティを含むすべての Extreme デバイスを単一の UI から可視化・制御できるため、運用部門間の調整にかかる工数が削減されます。
- 役割ベースのアクセス制御およびポリシーテンプレートを活用することで、構成作業を迅速に行うことができます。

4. 自動化されたセキュリティとコンプライアンス

- 組み込みのマイクロセグメンテーションと動的仮想ネットワークにより、セグメンテーションの適用が自動化されます。
- AI を活用したコンプライアンス管理によって、監査対応、継続的な監視、是正対応にかかる作業が効率化されます。

5. アップグレードおよび変更管理の簡索性

- ソフトウェアおよびファームウェア更新の自動化・オーケストレーションにより、手動による介入を減らし、運用リスクを低減します。
- インテリジェントな分析機能による変更検証により、変更がネットワークに与える影響を事前に把握できます。

ネットワーク TCO モデルの前提条件

Extreme Platform ONE™ および Extreme Fabric のベネフィットを定量化するため、本レポートでは TCO（総所有コスト）モデルを使用し、**ネットワーク規模の異なる 3 つのシナリオ**を比較しています。

対象となるシナリオは以下のとおりです。

- 小規模ネットワーク
- 中規模ネットワーク
- 大規模ネットワーク

それぞれのシナリオにおける拠点数、アクセスポイント数、およびスイッチ数は、表 2、表 3、表 4 に示されています。

項目	拠点数	拠点あたり アクセスポイント数	拠点あたりスイッチ数	アクセスポイント合計数	スイッチ合計数
小サイズ	5	5	1	25	5
中サイズ	2	30	4	60	8
			合計	85	13

表2：小規模ネットワークの構成

項目	拠点数	拠点あたり アクセスポイント数	拠点あたりスイッチ数	アクセスポイント合計数	スイッチ合計数
小サイズ	100	5	1	500	100
中サイズ	20	30	4	600	80
大サイズ	2	250	20	500	40
			合計	1600	220

表3：中規模ネットワークの構成

項目	拠点数	拠点あたり アクセスポイント数	拠点あたりスイッチ数	アクセスポイント合計数	スイッチ合計数
小サイズ	500	5	1	2500	500
中サイズ	100	30	4	3000	400
大サイズ	5	250	20	1250	100
特大サイズ	2	1000	100	2000	200
			合計	8750	13

表4：大規模ネットワークの構成

各シナリオでは、Extreme のエンタープライズ向け有線・無線ネットワークと、主要競合ベンダーの同等規模のネットワークを比較しています。TCO モデルで考慮する費用項目は、以下の 2 つです。

- ネットワーク機器およびソフトウェアに関する 設備投資 (CapEx)
- ネットワーク運用にかかる 人件費 (OpEx)

ハードウェアおよびソフトウェアのコスト比較にあたっては、競争力のある価格設定を前提条件として使用しています。Extreme 側の前提条件には、Extreme Platform ONE のソフトウェア費用が含まれています。一方、Extreme Fabric は対応する Extreme スイッチモデルに無償で含まれています。これに対し、競合ベンダーについては、Extreme Fabric に相当する機能のソフトウェア費用を含めています。

TCO 削減の主な要因は、Extreme Platform ONE および Extreme Fabric による人件費削減です。人件費については、以下の作業カテゴリを対象としています。

- 計画
- セキュリティコンプライアンス管理
- 構成管理
- 在庫管理
- ヘルプデスク対応
- 障害管理
- ソフトウェアアップグレード

アクセスポイントおよびスイッチ 1 台あたりの年間作業時間に関する前提条件は、表 5 に示されています。本比較では、主要競合ベンダーが、ヘルプデスク、障害管理、および性能管理の分野において、AIOps を効果的に活用し、人件費削減を実現していると仮定しています。そのため、これらのカテゴリにおいては、Extreme ソリューションによる追加的な人件費削減効果はないものとしています。一方で、Extreme Platform ONE は以下の分野において、多くの追加的なメリットを提供します。

- 計画
- セキュリティコンプライアンス管理
- 構成管理
- 在庫およびソフトウェアライセンス管理

これらの分野では、最大 80% の人件費削減が可能であるとしています。

労務カテゴリ	AP 1台あたりの年間作業時間	スイッチ1台あたりの年間作業時間	Extreme Platform ONE による人件費削減率
計画	1	2	80%
セキュリティコンプライアンス管理	1	3	80%
構成管理	0.5	1	80%
在庫・ソフトウェアライセンス管理	0.5	1	80%
ヘルプデスク	2	2	0%
障害・性能管理	3	2	0%
ソフトウェアアップグレード	0.5	1.5	20%

表5：労務カテゴリに関する前提条件

フルコスト換算された人件費に関する前提条件は、表6に示されています。なお、計画およびセキュリティコンプライアンス管理は、他の作業カテゴリと比較してより高いスキルレベルが求められるため、人件費が高く設定されています。一方、ヘルプデスク対応に関する人件費は、エンジニアリング作業よりも低く設定されています。

労務カテゴリ	年間コスト
計画	\$180,000
セキュリティコンプライアンス管理	\$200,000
構成管理	\$120,000
在庫およびソフトウェアライセンス管理	\$120,000
ヘルプデスク	\$50,000
障害および性能管理	\$120,000
ソフトウェアアップグレード	\$120,000

表6：フルコスト換算の人件費

ネットワーク TCO 結果：小規模ネットワーク

小規模ネットワークシナリオにおける TCO (総所有コスト) の結果を、表7、図1、図2に示します。

項目	競合	Extreme	削減額	削減率
累積 CAPEX	\$221,355	\$182,355	\$39,000	18%
累積 OPEX	\$293,679	\$166,833	\$126,846	43%
累積 TCO	\$515,034	\$349,188	\$165,846	32%

表7：小規模ネットワークにおける Extreme と主要競合との5年累積 TCO 比較

Cumulative 5-Year TCO Comparison

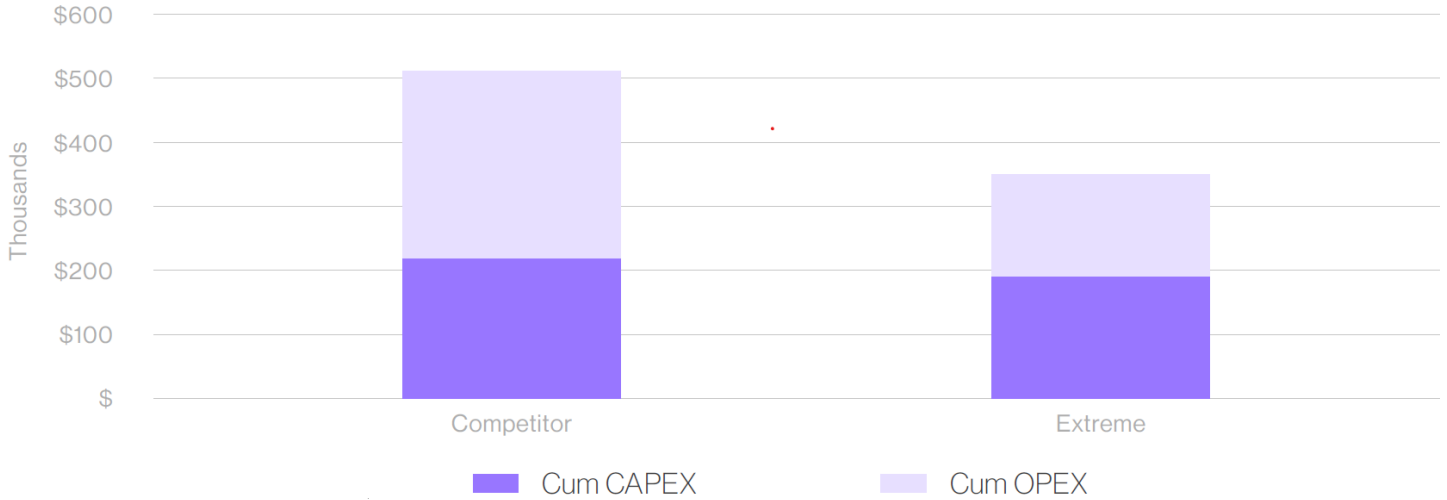


図1：小規模ネットワークにおける Extreme と主要競合の 5 年累積 TCO 比較

人件費削減の内訳は、エンタープライズ向け有線および無線ネットワーク環境で一般的に見られる各種運用カテゴリについて、5 年間にわたる総人件費を Extreme と主要競合とで比較したものです。最も大きな削減効果が確認された分野は、セキュリティコンプライアンス管理、計画、構成管理、ならびに在庫およびソフトウェアライセンス管理です。

5 Year Cumulative Labor Expense Comparison

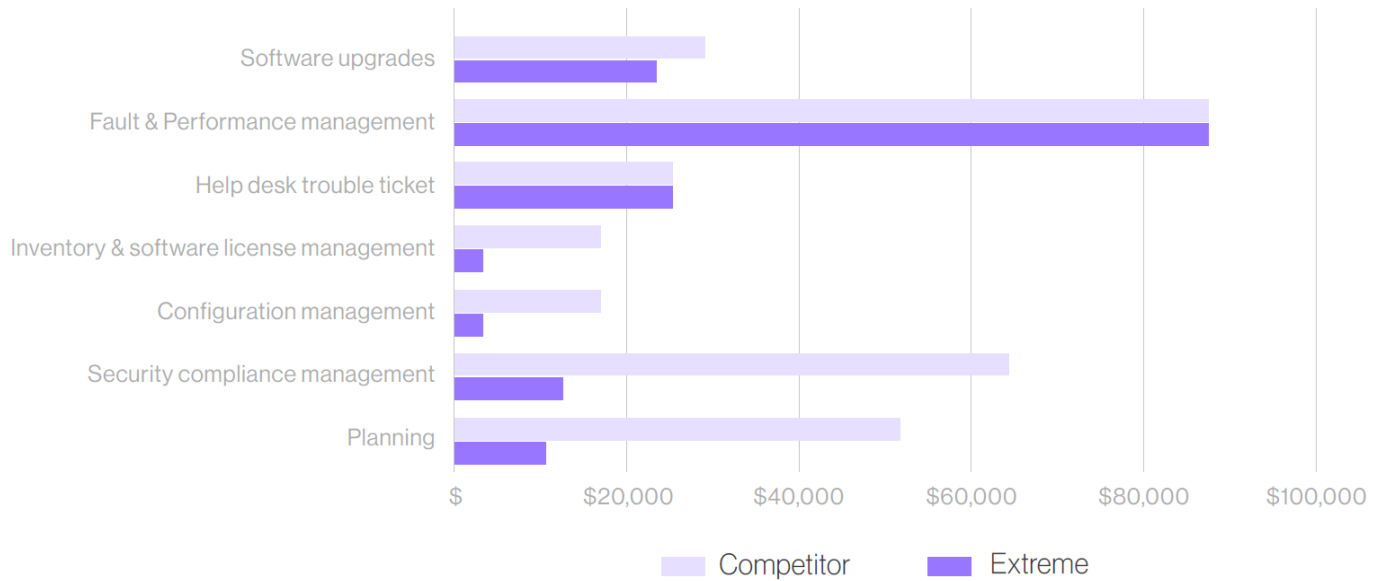


図2：小規模ネットワークにおける 5 年累積運用コスト (OpEx) の内訳比較

ネットワーク TCO 結果 : 中規模ネットワーク

中規模ネットワークシナリオにおける TCO（総所有コスト）の結果を、表 8、図 3、図 4 に示します。

項目	競合	Extreme	削減額	削減率
累積 CAPEX	\$3,913,200	\$3,253,200	\$660,000	17%
累積 OPEX	\$5,411,635	\$3,089,179	\$2,322,457	43%
累積 TCO	\$9,324,835	\$6,342,379	\$2,982,457	32%

表8：中規模ネットワークにおける Extreme と主要競合との 5 年累積 TCO 比較

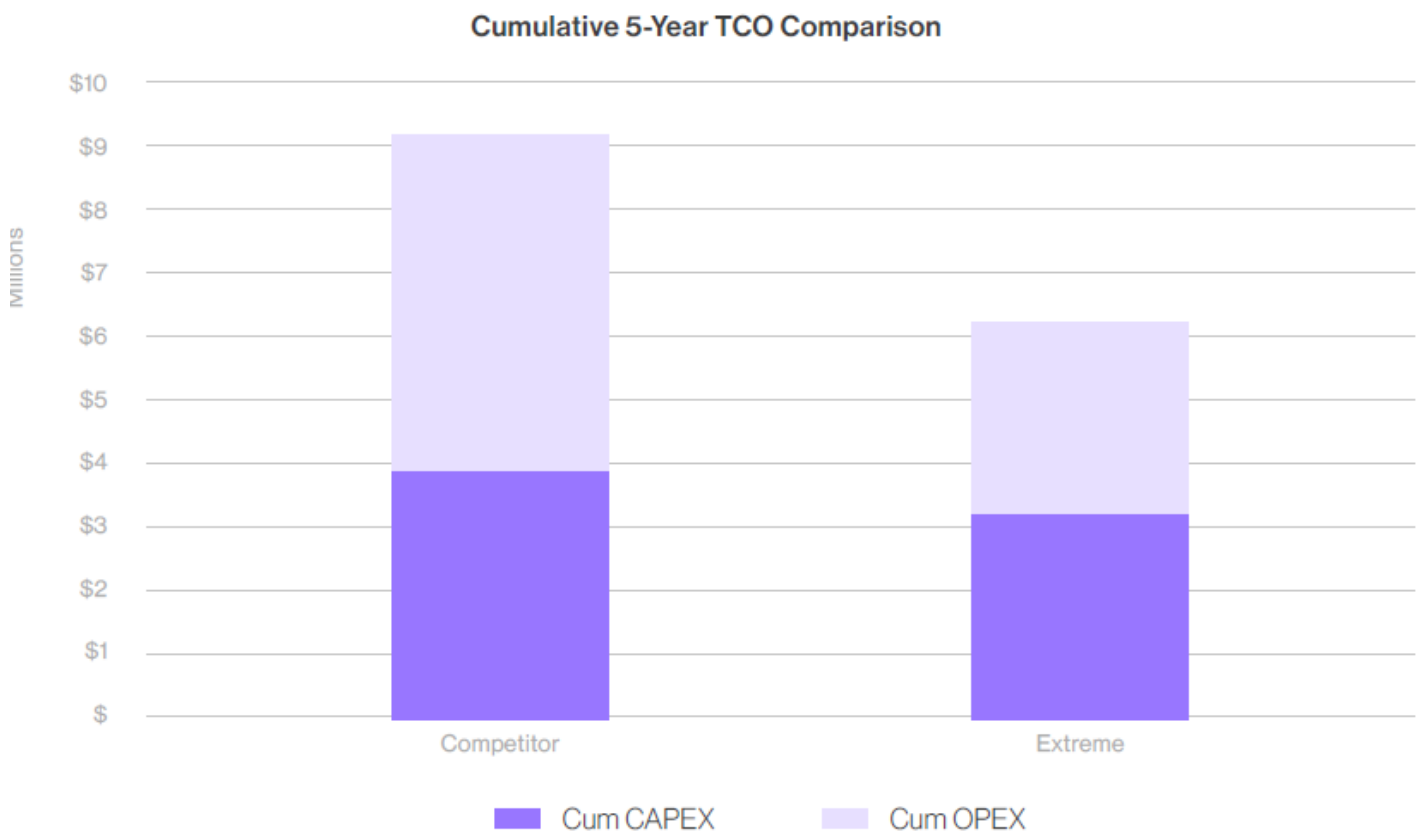


図3：中規模ネットワークにおける Extreme と主要競合の 5 年累積 TCO 比較

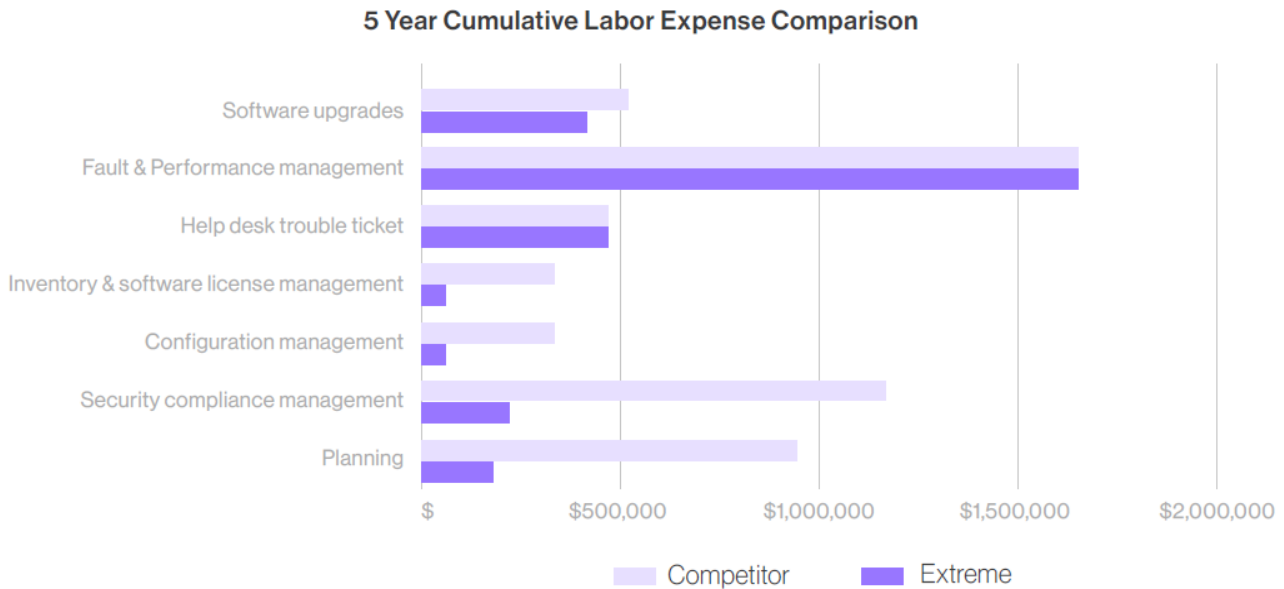


図4：中規模ネットワークにおける5年累積運用コスト（OpEx）の内訳比較

ネットワーク TCO 結果：大規模ネットワーク

大規模ネットワークシナリオにおける TCO（総所有コスト）の結果を、表9、図5、図6に示します。

項目	競合	Extreme	削減額	削減率
累積 CAPEX	\$3,913,200	\$3,253,200	\$660,000	17%
累積 OPEX	\$5,411,635	\$3,089,179	\$2,322,457	43%
累積 TCO	\$9,324,835	\$6,342,379	\$2,982,457	32%

表9：大規模ネットワークにおける Extreme と主要競合との5年累積 TCO 比較

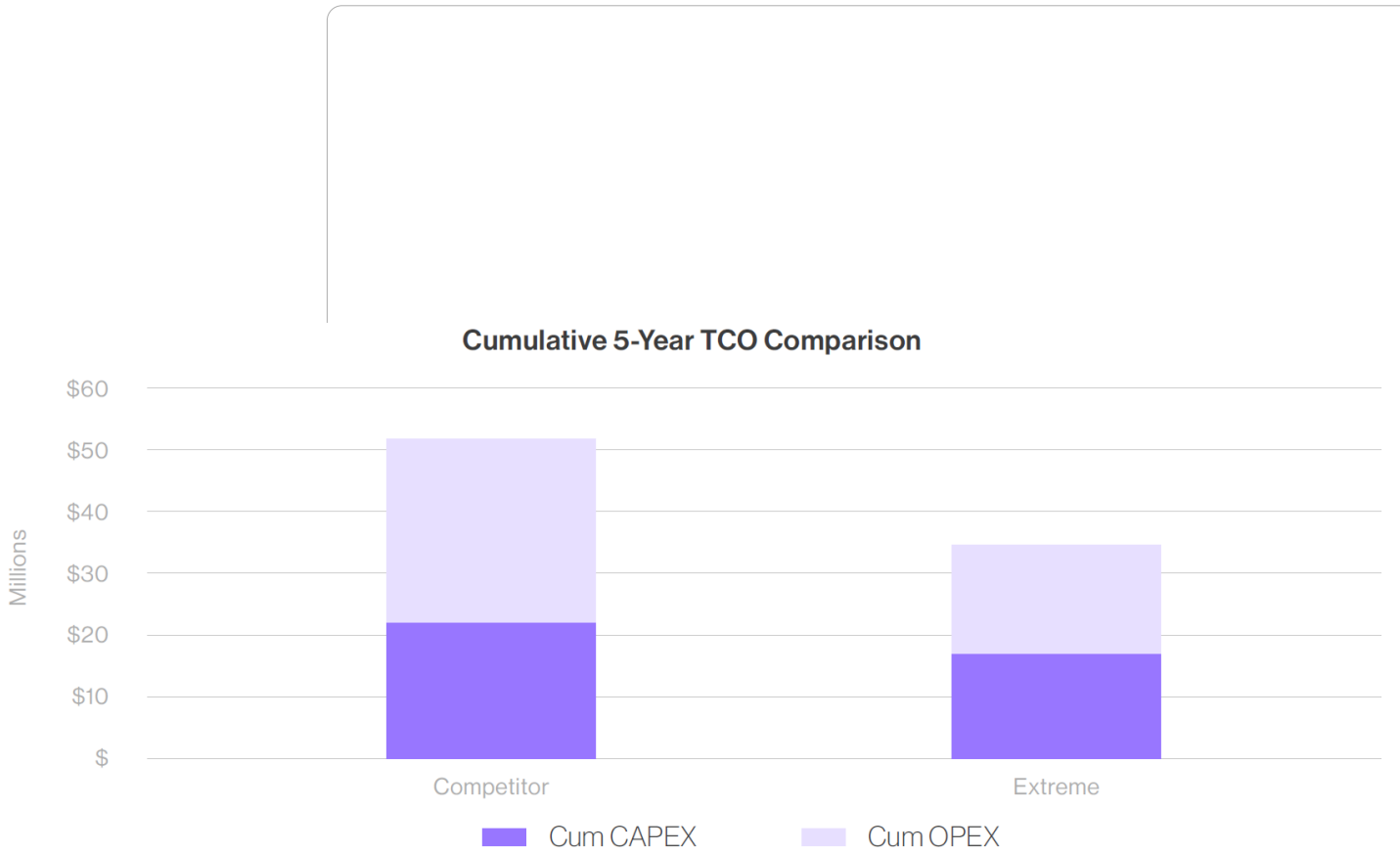


図5：大規模ネットワークにおける Extreme と主要競合の 5 年累積 TCO 比較



図6：大規模ネットワークにおける 5 年累積運用コスト (OpEx) の内訳比較

結果のまとめ

すべてのネットワーク規模のシナリオにおいて、Extreme Platform ONE の AIOps による効果と Extreme Fabric のネットワーク管理上の効果により、全体の TCO は 32% 削減されました。この削減効果は主に業務の効率化向上によるものです。Extreme Fabric が対応する Extreme スイッチに 無償で提供されるのに対し、主要競合ベンダーは同等の製品に対して別途費用を請求しているため、設備投資 (CapEx) にはわずかな差異が生じています。

主要な知見

- **障害および性能管理**

障害および性能管理は、人件費の観点から見ると最もコスト比率の高いカテゴリです。しかし、Extreme と主要競合ベンダーの双方は、障害および性能管理において同等の AIOps 機能を備えていると想定されています。

- **セキュリティコンプライアンス管理と計画**

「セキュリティコンプライアンス管理」および「計画」の分野において、主要競合ベンダーの人件費は Extreme と比較して大幅に高くなっています。これは、これらの分野における Extreme Platform ONE の優位性を反映した結果です。

- **ソフトウェアアップグレード、在庫およびライセンス管理、構成管理**

これらの運用業務において、Extreme は一貫して低い人件費を示しています。特に顕著なコスト差が見られるのは、「在庫およびソフトウェアライセンス管理」と「構成管理」の分野であり、Extreme の人件費は、主要競合ベンダーのごく一部にとどまっています。これは、Extreme Platform ONE の AI Expert、AI Canvas、およびエージェント型 AI 自動化機能による効果です。

- **ヘルプデスク対応**

ヘルプデスク対応に関する人件費は、Extreme と主要競合ベンダーでほぼ同水準となっています。これは、両社がエンドユーザーサポートおよびトラブルシューティングにおいて、同程度に効率的なソリューションを提供していることを示しています。

結論

今日のデジタルファースト環境がもたらす動的な課題に対応するために、もはや従来型のネットワーク運用手法に依存することはできません。Extreme Platform ONE™ と Extreme Fabric は、複雑化の要因だったネットワークインフラストラクチャを、俊敏性と価値を生み出す推進力へと変革する、一体化されたソリューションを提供します。自動化されたプロビジョニング、統合管理、そして運用基盤に組み込まれたセキュリティにより、IT チームは保守作業ではなく、イノベーションに集中することが可能になります。

Extreme の次世代ネットワーキングプラットフォームを導入することで、企業は TCO の削減や運用効率の向上といった大きな経済的メリットを享受できるだけでなく、ユーザー体験、セキュリティ体制、スケーラビリティの向上も実現できます。IT リーダーにとって進むべき方向は明確です。ますます複雑化が進む世界において競争優位性を維持するためには、Extreme Platform ONE™ と Extreme Fabric のような、AI を活用した自動化と統合管理を取り入れることが不可欠です。

About ACG Research

ACG Research delivers information and communication technology market share/forecast reports, consulting services, and business case analysis services. Copyright © 2025 ACG Research. The copyright in this publication or the material on this website (including without limitation the text, computer code, artwork, photographs, images, music, audio material, video material and audio-visual material on this website) is owned by ACG Research. All Rights Reserved.

Author: Peter Fetterolf PhD

Source: ACG Research